

# VII.

## 向上・進化の原則－変化に対応しグローバルな視点に立つＩＲ

情報開示の向上を常に心がけ、  
グローバルな視点に立ち、進化し、深化するＩＲを実践する

### 【基本姿勢】

- ① コミュニケーション能力を高め、グローバルな視点を持つ
- ② 可能な限りＩＲ・情報開示を取り巻く国際的な環境をウォッチし、早めに対応する
- ③ 可能な限り欧州、米国、アジア各地域の株主・投資家の考え方を知り、コミュニケーションを進め

### 【実行の手引き】

- ① コミュニケーション能力を高め、グローバルな視点を持つ
  - 経営トップを筆頭に、ＩＲに関わる人間が双方向のコミュニケーションを実施する
  - 外国人株主・投資家に対しては、可能な限り英語での説明・対話に努める
  - 可能な限りグローバルに企業価値を分析するための情報（グローバル経済の影響、海外での事業展開、海外の競合企業に比べての強みなど）を開示し、ディスカッションする
  - 可能な限り、経営トップが外国人投資家と直接対話する機会を設け、お互いの価値観や時間軸を理解し、認識ギャップを縮める
- ② ＩＲ・情報開示を取り巻く国際的な環境を可能な限りウォッチし、早めに対応する
  - 新聞報道や専門機関の調査などから国際的なＩＲ・情報開示に関する法令・規則、会計基準の改定をとらえ、必要な情報や体制構築などを可能な限り準備する
  - ＩＲを通じて資本市場の参加者の変化や焦点となる話題をウォッチし、的を射た回答をして有益なディスカッションにする
- ③ 欧州、米国、アジア各地域の株主・投資家の考え方を可能な限り知り、コミュニケーションを進める
  - 日本ＩＲ協議会や東京証券取引所、専門機関の調査結果などを通じて欧州、米国、アジア各地域に存在する機関投資家の日本株投資に対する姿勢を把握する
  - 資本コストについての考え方を、可能な限り経営トップやＣＦＯが具体的に説明する
  - 株式分割などの施策を実施する場合は、株主資本を考慮した説明を実施する
  - 株主への利益還元姿勢について、可能な限り理解しやすい指標、例えば配当性向の目標やＤＯＥ、総還元性向などの指標を活用してＩＲで説明する
  - 海外と日本の間でＩＲ・情報開示・コーポレート・ガバナンスのルールに違いがあれば理解を促進し、お互いの結節点を探す